

被災者・地域への配慮と安全なボランティア活動のために

● 災害ボランティアとは

- ・ ボランティアは他人に強制されて行動するのではなく、自らの自由意志で自立かつ徹底した自己責任で活動するのが原則です。
- ・ ただし、緊急時・災害時のボランティアは、日常での市民活動や福祉ボランティアの常識や行動基準とは大きく異なり、悲惨な現実に対して効果的な行動をとるために、強いチームワークをもって行動することが求められます。
- ・ ボランティア個々人が『私はこうしたい』という気持ちを強く出すことは、ときには迷惑にしかありません。現場では被災者の願いや思い、チーム全体の流れに沿った活動をチームプレイで行うことで、個人ではなし得ない高い効果が発揮されるのです。
- ・ RQ 九州では宿泊拠点を用意し、活動内容のコーディネートを行います。ボランティアに参加される方は装備、食事等についてご自身でまかない、自分の安全は自ら確保することが活動の前提です。

● 被災者と被災地域への配慮

モノは丁寧に扱ってください

- ・ 4月14日までは、普通の暮らしや営みがあった地域です。ゴミ、ガレキであってもすべてに持ち主があり、大事な家跡であり、品々です。丁寧に扱ってください。

柔らかく受け止めましょう。

- ・ 明るい笑顔の被災者もいれば、怒りをあらわにされる方もいます。でもすべては大地震で多くを失った方です。子ども達さえ、日々大きな絶望と小さな希望との間で揺れ動いています。その時の表情、態度ですべてを押し量らず、やわらかく受け止めましょう。

ボランティアができることはささやかです。

- ・ ボランティアができることはささやかです。災害の主演と勘違いしてなんでもできるかのような尊大な態度言動は深く慎んでください。

誠実に活動してください。

- ・ RQ に限らず、地区外から来るすべてのボランティアは「よその」です。突然現れたボランティアたちを被災地の皆さんはじっと見ている。一人の不用意な言動が被災者とボランティアを引き離してしまうかもしれません。信頼なくして効果的なボランティア活動は成り立ちません。誠実に活動してください。

元気な笑顔を忘れずに。

- ・ ボランティアは悲惨な状況を前に、表情も曇りがちですが、ボランティアの元気と笑顔が被災者の皆さんにとっても喜ばれてきました。元気な笑顔を忘れずに。

● 安全なボランティア活動のために

- ・ 災害ボランティアは特定の組織の構成員ではなく、自由意志で参加した市民です。自分が危険だと思ったり不適切だと思う活動は断る自由があり、誰も強制できません。
- ・ 自らの安全は自ら守る＝セルフエイドの思想が災害ボランティアの原則です。
- ・ 危険区域などへは立ち入らないようにしてください。

安全なボランティア活動の原則

1. 活動は2人以上のチームで行う: 個人行動や一人では行動しないでください。
2. RQ ボランティアの所属を明らかにする: ビブス、ID カードは必ず着用してください。
3. 倒壊家屋内部や水辺の片づけはしない: 危険な作業は頼まれてもお断りしてください。
4. しっかりした準備で作業する: 活動内容にふさわしい準備と服装をしてください。
5. 安全運転・法令遵守: 被災地では普段より慎重に交通ルールに沿って安全運転遵守です。
6. 元気よく声をかける: 活動場所では明朗な声と態度で被災者の方に接してください。
7. 事前打ち合わせと報告の徹底: 活動に際しては、事前と事後の打ち合わせ、報告を徹底しま

● 災害ボランティア活動の実際

避難所で

- ・ 体育館などの大規模避難所以外の民家での避難所も無数にあり、すべてがRQの活動対象です。
- ・ 避難所では住民リーダー(施設管理者)の指示に従って行動します。
- ・ 避難所内部はプライバシーに気遣い、原則、活動場所は避難所の外のエリアとします。
- ・ 住民の水汲み、トイレ掃除、炊き出しなどの作業の他、マッサージ、散髪などの技能活動、子どもの遊び活動や、絵本の読み聞かせ、カフェの運営やお年寄りへの「なにか困っていませんか?」などの声掛けに始まる話し相手(傾聴)など、その避難所に合わせた活動を作っていきます。
- ・ とくに「傾聴」活動は被災体験を他人に話すことでこころのつかえを取り除く効果がある反面、興味本位に聞きだしたり、ボランティア自身が話をリードしてしまうことで逆に被災者の心を傷つけるおそれもあります。また、被災体験を聞く備えが無いボランティアの場合には自分自身が耐え難い思いを抱くこともあり、慎重に穏やかに話を静かに聞く備えを持ってください

物資配布

- ・ 被災地ではとくに慎重な運転が必要です。けっして無理せず疲れたら休んでください。
- ・ 物資の要望はすべて応じることができません。また、地域経済への配慮や妥当性の見られない要望には丁寧に断りすることも大事です。
- ・ 物資は緊急支援期のほか、仮設入居時や引越し時期などニーズが再度高まるときがあり、それに沿った物資管理が必要となります。

瓦礫・漂流ゴミ

- ・ 行政が行う以外の人力でしか出来ない片付け作業は、安全な箇所でのみ行います。
- ・ 片付け作業の対象地は、地権者、地区長などの承認のもとで実施し、無断では行いません。
- ・ 片付け作業には、集めたゴミの処理や作業方法などを十分打合せの上で実施します。
- ・ 丈夫な軍手、作業靴、ヘルメットないし、帽子着用、マスク、作業着など着用します。

ボランティアのためのボランティア

- ・ 災害ボランティアが活動するために現場では、『食事を作る人』、『連絡調整をする人』、『活動準備を担当する人』など、多くの「ボランティアのためのボランティア」が必要です。
- ・ すべてのボランティアが現場に出て、被災地や被災者に直接サービスしたいと思えば、ボランティア本部もボラセンも成り立ちません。ぜひ、大事でかつ、多様な活動を受け入れてください。

活動時間

- ・ 原則的に7時までに朝食を済ませ、8時には活動に出られるようにします。昼食をまたぐ場合には弁当を各自、持ってくるようにしてください。16時までに作業と片付けを終えてください。
- ・ 遅くとも18時半までにRQの各ボラセンに戻ってください。

怪我をしたら

- ・ ただちに応急措置を行い、本部に連絡をして指示を受けてください。
- ・ 自力で帰れない場合にはレスキューチームを派遣します。
- ・ 軽度の怪我でもかならず患部を洗うか清拭し、その後に消毒して、けっして怪我を放置しないようにしてください。
- ・ 怪我によってボランティア活動を継続できない場合には、速やかにボランティア活動から離れ、帰宅してください。
- ・ 怪我にはボランティア保険が適用できますので、RQ 東京本部に問い合わせてください。